

2024年間報告書

日頃より白山ワールドルフコミュニティの活動にご関心をお寄せいただき、温かいご支援をいただいている皆様へ、心から感謝申し上げます。2024年の石川県は、大きな出来事から始まり、白山ワールドルフコミュニティの活動もまた、たくさんの出来事や変化を伴い、新たな一歩を踏み出し、成長した一年となりました。

2021年の設立以来、北陸にシュタイナー学校をつくる土台づくりのあゆみを、一步一步、進めてきました。そしてこの度、金沢市山王町から牧町の一軒家へと活動拠点を移すご縁をいただきました。この新しい「おうち」は、徒歩3分の距離に「牧町会館」や「三河神社」があり、子どもたちが健やかに成長できる自然豊かな環境と学びの場が揃っている場所。みんなで遊び、学び、育ち合う輪が、さらに広がる余白をいただきました。

2025年も、一人ひとりの子どもが「自分らしく生きていい」と思えるような、子ども時代をあたたく見守る環境を、私たち大人が創り出していける力を持てますように。そして、子どもたちが生まれ持ったギフトを生かせる社会となっていけますように。そう願いながら、この学びの輪を拡げていけるように励んでまいります。



牧町会館にて、12月のアドベントガーデンスパイラル。

なお、この教育活動では、親と教師とが共に子どもたちの育ちを支える柱となることを大切にしています。様々な形でのご参加及びサポートを心より歓迎します。

今後の活動継続と発展に向けて、皆様には益々のご協力・ご支援を賜りますよう、末長く、よろしく願いいたします。

(文責：代表理事／矢後千夏)

金のいずみ土曜学校への取り組み

ー土曜学校にしようー

2022年に夕日寺の「おうち」を開いて以来、幼児・親子・小学生・中学生・大人の学び、様々な開いてきた「教室」を、一つの「学校」として始めるアイデアが降って来たのは、新年度のわずか一か月と少し前。

小学部は、農と暮らし・英語に加えて、オイリュトミー・手仕事で編成。幼児部は、親子教室「みつぼち」に加えて、畑を中心にした「くまの子」。仲間を迎える枠組みを整えて、4月の田んぼで「出会いの会」を開きました。

「教室」と「学校」、何が違うの？ー決定的に変えたかったことは、せんせいと子ども・親とせんせい、そして「がっこう」という輪と「ひとり一人」のつながり方でした。「教室」のある日・教室に来て一緒に活動する日だけでなく、平日会わないときでも、教室に来れなくても、いつでも心の繋がりがあり、思いあい、働きかけあうことを前提としたい。何かを学んで持ち帰る「教室」でなく、大人・こども、一人ひとりが自分を持ち込んで、創る場としての、「がっこう」。その願いを叶えるための今のわたしたちの形が、「金のいずみ土曜学校」です。

4月の「出会いの会」から始まり、事務局、教師、エイヤッと飛び込んでくれた子どもたち、大人たち、その家族、学びの輪を囲む人たち。足を踏み入れた誰もが、最初に想像したよりもずっと濃く、この活動に深く関わり、それに合わせて少しずつ、何かを意識的に変え始めています。とにもかくにもヨチヨチ歩きをはじめた「がっこう」は、仲間を増やし、牧町の自然の中の新たな「おうち」に引っ越し、地域の方にも暖かく見守っていただきながら、今も刻々、しなやかに、健やかに育っています。

(文責：田谷よしこ)



幼児部

生まれて最初の7年は、「私」という存在が宿る器＝からだを育てる大切な時期。そしてその時期を支えるのは、子どもが育つ環境です。

金のいずみ土曜学校の幼児部では、今年度はこれまでの親子教室「みつばちクラス」に加え、農と暮らしの教室「くまの子クラス」を実施いたしました。そこでは、親子で畑づくりに参加し共に働きながらも、野花に親しんだり、土の中の生き物に触れる様な自然体験もしてきました。

里山の自然環境は、子ども達の手足を育て、健全な心身を育てるには申し分のない環境です。



また、幼児期の最大の学びの在り方は模倣です。「みつばちクラス」では、パン作りや手仕事を、「くまの子クラス」では料理やおもちゃ作りなどを通して、大人が子どもたちに「何かを創り出す喜び」を見せ、子どもたちはそれを模倣し、自分でも何かを作り出すことを楽しんでいます。(つづく)

例えば、「僕もやってみたい」そう言って、誰に言われたわけでもなく5歳の子は、お母さんの手仕事の横で針を手に持ち、ぎこちなく、でも集中して、ちくちくと縫い始めました。その子の表情には、真剣さと喜びが溢れていました。

季節のうたやおはなしは、心の栄養となり、豊かに想像する力となります。保護者の方々からは、みつばちクラスでの温かい経験を通して、子どもたちの成長を感じたという嬉しいお言葉をたくさんいただいています。このような声は、私たちにとって、より良いクラス作りへと繋がる大きな励みとなっています。



そして今年度は、多様な個性を持つ誰もが受け入れてもらえていると感じ、「自分らしく安心して健やかに成長できる環境づくり」をこれまで以上に模索した一年になりました。

クラスで過ごす時間は、子どもだけでなく、大人自身（親）も、日頃の忙しさから離れ、心の穏やかさを取り戻す時間であってほしいと願っています。一人ひとりの大人が平和を取り戻した時、心からの微笑みが生まれ、温かな空間が生まれます。そのような場で、小さな子ども達は、優しさを体験し、模倣し、そしてお互いの個性や違いを受け入れながら、受容力を高めることにもつながってゆくと思えます。

世界が抱える課題の中で、子どもたちの未来が少しでも平和でありますようにと願います。土曜学校で経験した温かい体験が、子どもたちの未来、そして世界を明るく照らす一筋の光となることを信じています。

（講師：石本さゆり）

小学部 農と暮らしの教室

小学部のぼこぼこでは、農と暮らし、シュタイナー教育のエポック授業、オイリュトミーに取り組んでいます。農と暮らしにおいては、「命に根ざし日々生きる」ということを。授業とオイリュトミーにおいては、「生きた知、そして命に繋がる」ということを、子どもたちと共有したく、2学期間懸命に実践してきました。

思いが強い故に空回りすることもあり、子どもたちにちゃんと伝わっているだろうか、迷い、悩むこともありました。でも本当に大切なものを届けたいという思いは少しずつ浸透していき、まだまだ進行形ですが、土曜クラスとしての形が出来上がってきました。

授業前にいつもみんなで試みる動きがあります。渦巻きの動きです。手をつないで大きな輪を作り、先頭の子供が歌いながら渦巻状の中に入っていきます。みんなはそれに続きます。これ以上中に入れないところまで来たら、今度は外に向けて反転し、ゆっくり元の輪に戻っていきます。歌いながら歩むみんなは笑顔で本当に楽しそうです。上手くできた時は拍手が起こります。この何の変哲もない動きは、収縮と拡散と呼ばれ、命の原理を表し、この教室の在りようを象徴しているかのようです。

(つづく)





農作業を通して土に触れること、黒板に一本の真っ直ぐな線を描くこと、言葉の響きをオイリュトミーの仕種で体験すること。これら農と暮らしとシュタイナー教育は、私達にとって分かれ難く結びついています。

素晴らしい環境の中、子どもたちはそれらを全身で受けとり、日々成長する姿を見せてくれます。これからの活動が、より実り豊かなものとなりますように。

(講師：穴田真)

小学部 英語と手仕事の教室

英語の時間には、歌やゲームに合わせて体を動かしたり、劇をしたりしながら、流れるようなリズムの中で英語に触れ、手仕事の時間には、糸紡ぎをしたり、自分で草木染めをした毛糸で編み物をしたりと、集中して作り上げる体験をしてきました。

内容や進め方に試行錯誤しつつも、英語教室ではリズムに合わせて身体を動かし身体感覚をさらに育てていくこと、そして、手仕事教室ではたくさん手を動かし手を育てていくことが、その子の身体や心を自由にしていくことに繋がると信じ、進めてきました。(つづく)



最初は、繰り返しの作業に飽きてしまったり、出来ないと投げ出してしまいう子もいましたが、数か月経つと、徐々にふたつの教室の流れやリズムが子どもたちの体に入っていました。今まで声を出さなかった子がある時から大きな声で歌い出したり、場がしんと静まり急に黙々と手を動かしたり、子どもたちにとっては無意識の変化ではありますが、見守る私たちにとっては、宝物のような時間が生まれるようになりました。

それぞれのペースで、自分の内面にぐっと入りこむ時間ができるようになったことは、子どもたち1人1人の心に豊かさや満足感を与えるだけでなく、クラスにまとまりをもたせてくれています。



英語と手仕事の教室は、低学年と高学年に分かれて学びますが、隣同士の部屋で開催されるため、近くでみんなの気配を感じながら行われています。それもあってか、4月には緊張気味だった子どもたちもすぐに距離が縮まり、早い段階でいろいろな喜怒哀楽を見せてくれるようになりました。その子の持つ気質に加えて、年齢に沿った変化や、人と人との交わりで起こる変化に、たくさん出くわす場面がありました。悔しくて泣いたり、怒ったり、出来るようになって喜んだり、励まし合ったり、大笑いしたり。少しずつではありますが、ここでは、子どもたちが、ありのままの自分を出せる場になってきていると感じます。

心を育むといわれる学童期。「世界は美しいところであり、自分はその世界の一部なのである」ということを、教室での学びの中だけでなく、一緒に学ぶ友達や教師、保護者の皆さんや、学校づくりを応援してくれている皆さんとの繋がりからも感じられる、そんな場に育っていくことを願っています。

(講師：後藤理紗子)

大人の学び～マナ部読書会・勉強会・こっこクラス～

「大人の学び」では、昨年度に引き続き人間の本質を深く探求しています。特に、アントロポゾフィーの人間観をベースに、より「本質的な問い」について共に学びを深めています。

ルドルフ・シュタイナー博士は、100年以上も前に、「子どもを教育しようという考えは捨ててください。それよりも自分自身が正しい生き方をしようと考えれば考えるほど、そのことが、子どものためになるのです。自己教育によって作り出したものが、自然と子どもたちに流れ込んでいきます。」と、説きました。

この考えに基づき、私たちの大人の学びは、「読書会」や「勉強会」、そして「こっこクラス」という形で、オンラインと対面で実施されています。これらの場で、共に学び、共に成長できることを目指しています。



11月の「こっこクラス」では、講師の田谷よしこさんが「シュタイナー博士が言っていることは“なんだかよくわからない”けど、でもこれは本当のような気がする。そしてそれは、私たちが願う未来に繋がっていく道があるような気がする。」と、クラスの始めに話してくれました。

同じ様に感じて集まってくれている参加者の方々がたくさん集まってくれ、共に学び、そして願う未来を一緒に創ってくれていることが、とても嬉しいです。

学校づくりは、未来を創るための道。
その道で出逢う一人ひとりと観る風景が、とても新しく、そして美しいと感じます。

(講師：石本さゆり)

にじと白山震災支援プロジェクト

1月2日、まだ起きていることが夢なのか現実なのか定まらない意識で、とにかくにも電波の届くところまで移動してネットを繋ぐと、白山ワールドルフコミュニティのメンバーが七尾に住む私の安否を気にしながら、支援物資を集める連絡をとりあっているところでした。

その後、東日本大震災の後にドイツからのアントロポゾフィーのチームと一緒に東北で「トラウマケア」を行い活動を続けて来られた方たちとつながることができ、プロジェクトが立ち上がりました。アントロポゾフィーの視点でのケア活動は、呼吸をゆるめ、崩れたバランスを整え自分とあらためて繋がることを助けてくれる、水・トイレ・食べ物といった支援と同じように発災後の初期から大切な活動であることは、自分がケアを受けた体感からとてもよくわかりました。



活動にあたっては、主に関西からケアに来てくださる方と一緒に、現地スタッフとして、白山ワールドルフコミュニティのメンバー、今まで学びをともにし関わってくれた方、関心を持ってくれた方も一緒に動くことができました。

支援について学びながら、試行錯誤で活動を続け、わかったことは、わたしたちが普段行っている教育活動が、そのまま「子どもや大人のからだや心のケアにつながる」ということ、そしてこの活動は、東日本大震災、またはそれ以前から誰かが続けてきた活動を引き継ぎ、また育てて「次へつなぐもの」だということです。

発災から6月まで、医療と教育・芸術を中心に手探りで行ったケア活動はいったん一区切りとし、次なる活動を考えてきました。2025年1月に新たな活動を予定しています。白山ワールドルフコミュニティの活動から少し独立して、このプロジェクトでつながるメンバーを中心に進める形で始めます。何が必要で適切なのかを探りながら、小さく個別に丁寧に考え動くと同時に、長いスパンでとらえておおらかに取り組んでいきたいと考えています。

(文責：田谷 仁子)

終わりにー2025年に向けて

昨年の「玄米餅deクラウドファンディング」にてマニフェストした小学部の教室づくりは、なんと！カナダ・ネルソンのシュタイナー学校保護者、児島晶夫さんの登場により、想像を遥かに超えた仕上がりとなって現実化しました。

可動式かつ観音開きの扉付きの大きな黒板の素材が完成した3月。この時は、まだ誰も7月に牧町へ引っ越すことになるとは、知る由もありませんでした…。

2023年のマニフェストが



いよいよ小学部の教室づくり
2階に黒板、学習机、椅子を設置し
学びの場を整えます！



2024年3月に こうなって



こうなりました！

そして、思いがけず出会いのあった金沢市牧町の一軒家へのお引越し。それに加え、土曜学校の保護者主導イベントとして「オープナー」も実施でき、“変化づくし”の成長の一年となりました。

さあ、来たる2025年の白山ワールドルフコミュニティは、一体どんな風に変化していくのでしょうか？

きっと来年の今頃も、「こんな風になっているなんて誰が想像できた?!」と言っては報告書を書きながら、涙を流したり、笑ったりしながら、年末の忙しさに目を回していることでしょう。どんな結果であっても、変化は善であることを信じて。

2024年12月吉日

一般社団法人白山ワールドルフコミュニティ一同

